



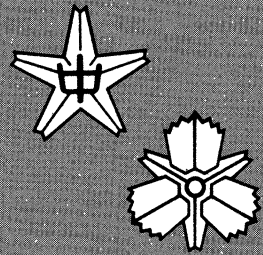
発行所

〒921
金沢市泉野出町3丁目10-10
石川県立金沢泉丘高校内

一泉同窓会

電話(0762)42-0211

1991.10.5発行



60代 vs 10代 21世紀を語り合う

昭和12年(1937)、一中が多摩町から富樫へ移転した。翌年春、新校舎へ最初に入學したのが、私たち一中50期生である。昭和17年(1942)、5年の時に創立50年をむかえた。太平洋戦争の真只中自ずから戦時色の濃い記念行事であった。

60歳の停年も過ぎた。母校の創立100周年(1993年)は、私たちの卒業50周年にもあたる。

後輩である泉丘生と是非一度話をしてみたい。と学校へお願いし、去る(1991年)3月7日泉丘高校に於いてこの会をもつことができた。

正村教頭、中島、長谷、梅田、米田先生と1・2年生27名。一泉編集室2名の参加を得た。

50期から、関東・浅井敏郎、市野孫之丞、関西・吉岡外美雄、地元・玉田進、新田史郎、畠一平、藤浦鋭夫、勝田博、西坂弥三郎、得能与三郎の10名が出席した。文責は得能にある。(得能氏から頂いた原稿に編集上若干手を加えさせていただいたことをお断わりしたい。)

テーマ1 「戦争と平和」

浅井 太平洋戦争を身近に感じて生きてきた一人として、戦争の思い出を語り伝えたい。なぜ太平洋戦争を始めたか。という講演も聞いた。開戦当初は、真珠湾(今年は、真珠湾から50年)の成果で私たちが希望を持ったが、戦局は好転しなかった。昭和20年(1950)8月15日終戦。戦争に負けるべきじゃないと痛感した。しかし、もし戦争に勝っていたら、政治を牛耳っていた軍部が力を得て、今のような民主的状态に到達しなかったと思う。敗戦によって初めて日本人は目が覚めたのだ。湾岸戦争のサダム・フセインの行動は、太平洋戦争が始まったときの日本によく似ている。私どもは、平和憲法に基づき湾岸戦争に参加しなかった。日本政府の対応は、自主的ではなく、決



断が遅れた。90億ドルの金を出せといわれたのです。皆さんは、湾岸戦争と政府の対応について、どのように考えていますか。

新田 開戦直前、学校に陸軍の将校が配属され、軍事教練が正課。まさに軍国主義教育の中での学園生活であった。軍部は、満州へ活路を見出そうと中国大陸への侵略行為を激化させたため、イラクのように日本は経済封鎖されて物資が入ってこなかった。戦争を始めたのは、一部の軍部です。当時アメリカではすでに車社会、日本は自転車。この点一つをとっても、世界を相手に、無謀な戦争をしたのだ。結果として負けたが、戦勝国であったら、今の日本は無かったと思う。

生徒1 湾岸戦争で、日本は自分の意志で早い時期に、お金だけは出すが、平和憲法維持のため後は出来ないと言ってしまうと国際的にも良かったのではないかと。

生徒2 太平洋戦争と今のイラクが似ているとのこと、歴史から見てイラク・クエート問題は、どうしたら解決するのが。

生徒3 第二次世界大戦へ入る前に、アメリカの3要求を日本が受け入れなかった。今の湾岸戦争でもイラクは、アメリカの撤退命令を受け入れなかった。もっと話し合いをして、紛争は解決されないのか。

生徒4 湾岸戦争を起こしたのは、アメリカか。最新のハイテク兵器を試してみたかったのか、と

